

Y04b 「高校生天体観測ネットワーク」による「しし座流星群国際観測会」のとりくみ

小川宏 (筑波大自然科学類)、高校生天体観測ネットワーク運営委員会

高校生天体観測ネットワーク・しし座流星群国際観測会は、1998年全国高校生同時観測会、1999年高校生国際観測会に続き、3年目のプロジェクトとなった。昨年までこの観測会の参加者で、今年度は、観測会OBとして新たに運営に携わったスタッフもいた。「より多くの高校生にしし座流星群を見てもらいたい」という運営委員会のねらいから、観測方法はこれまで同様、観測の基礎ともいうべき、眼視による計数観測を行った。この推奨観測およびその他のオプション観測について、今まで以上にわかりやすいマニュアルの作成と、その充実に取り組んだ。また今回は、10月より、WEB上に掲示板(BBS)が設置され、高校生の間でも様々な情報交換が行われた。観測夜には、速報データと共に「しし群の流れ星はきれいでした」といった率直な感想が寄せられた。観測報告は、国内98グループ、海外4ヶ国4グループ(約500名)より寄せられた。このうち、ルーマニアのグループは、しし座流星群が極大に向かう様子を見事に捕らえ、今年度も国際プロジェクトとしての特徴を大いに発揮した。また今回は、高校生に無理のない日程で参加してもらうために、観測夜を3夜設け、実施日の幅を持たせた。観測が終了した後も、観測する事だけにとどまらず「科学することの楽しさを体験してもらおう」「自らのデータを解析してみよう」と、解析ガイドの作成にも取り組んだ。このような機会は高校生にとっても大きな財産となるであろう。3年続いたプロジェクトであるが、今後もこのプロジェクトが、多くの高校生に「しし座流星群」を体験させ、それを通じて、現在叫ばれている理科離れを防ぎ、多くの交流が生まれていくことをスタッフ一同願っている。